

No. 770

(令和8年(2026年)5月)

分類コード 02-10

熊本県農林水産部

農業の新しい技術

クリ「美玖里」の間伐方法と適正結果母枝数

農業研究センター 球磨農業研究所

担当者：鶴岡奈緒

研究のねらい

クリ「美玖里」は、2015年に熊本県の推奨品種に選定され、栽培面積が増加しているが、他の品種に比べ枝の伸長が旺盛で着果数が多いという特徴があり、品種特性に応じた栽培技術が確立していない。

そこで、「美玖里」を計画密植（初期収量確保のため苗木を密に植えること）した際の間伐樹の処理方法及び成園におけるせん定時の適正な結果母枝数を明らかにする。

研究の成果

- 計画密植後の間伐予定樹を、①植栽5年目に間伐（間伐園）、②植栽5年目に縮伐し3年後に間伐（縮伐園）、③植栽8年後に間伐（密植園）で比較したところ（図1）、処理後3年間の累積の健全果収量は間伐園が最も多くなる（図3）。
- 間伐予定樹伐採後の永久樹の樹高は、間伐園、縮伐園が密植園より低い。また、低樹高を保つために必要な地上2～4mの範囲の結果母枝数は、間伐園が最も多く樹高を低く抑えることができる。（図2）。
- 成園でのせん定時の結果母枝数を7本/m²にすると、5本/m²、9本/m²より1m²当たり健全果重量は多いか同等であり、樹高も低く抑えることができる（表1、図4）。

以上のことから、「美玖里」を計画密植で栽培する場合、隣接樹と枝が重なり始める4～5年生頃に縮伐を行わず間伐を行うと、縮伐した場合や間伐を実施しない場合と比較して、処理後の累積収量が多くなり、樹高を低く抑えることができる。

また、成園におけるせん定時の適正な結果母枝数は、1m²当たり7本である。

成果の活用面・留意点

1. 間伐予定樹の処理方法の試験では、2017年に3.5m×3.5mで植栽した球磨農業研究所内の「美玖里」を用い植栽5年目（6年生）に間伐または縮伐を実施した。また、処理後3年目（2025年2月）に縮伐園と密植園の間伐予定樹を伐採した。

2. 結果母枝数の試験では、「美玖里」12年生、14年生（2025年時点）の樹を用い、せん定時に先端部まで充実した概ね30cm～2mの優良結果母枝を残して実施した。

[具体的データ]

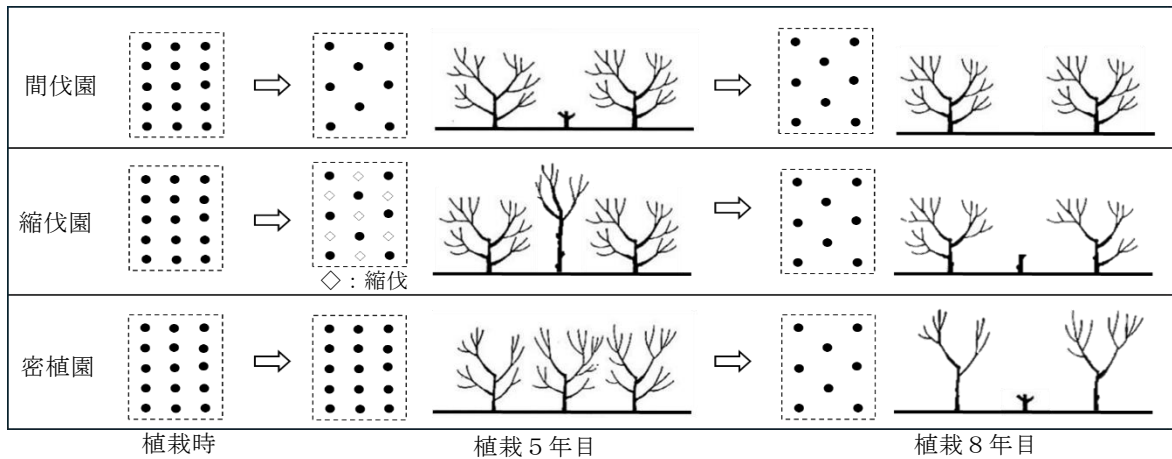


図1 「美玖里」計画密植園の間伐予定樹の処理方法のイメージ

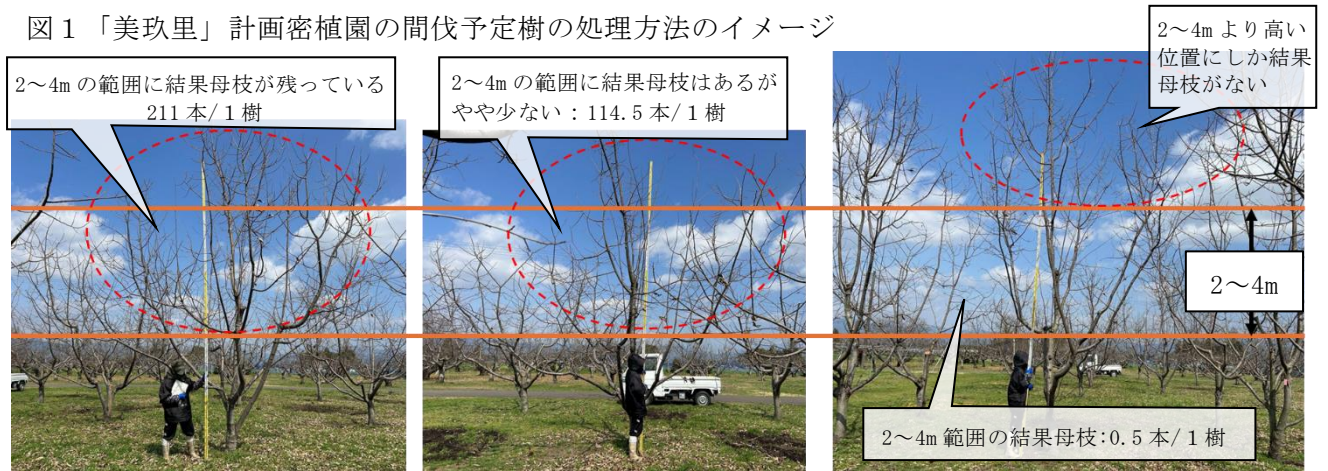


図2 間伐予定樹伐採後の永久樹（「美玖里」）（左：間伐園、中：縮伐園、右：密植園）

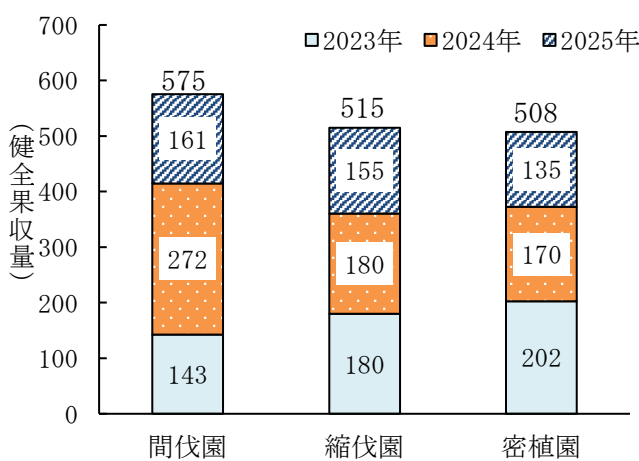


図3 縮間伐実施後2～4年目の「美玖里」の10a当たり健全果収量(試算)

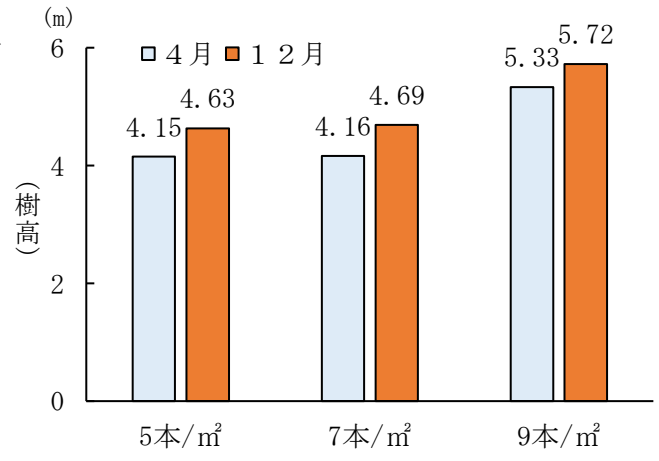


図4 成園におけるせん定時の結果母枝数の違いによる「美玖里」の樹高への影響(2025年)

表1 成園におけるせん定時の結果母枝数の違いによる「美玖里」の収量及び果実品質への影響

1 m ² 当たり 結果母枝数	健全果重量 (kg/m ²)			3 年平均 (2023年～2025年)					
	2023年	2024年	2025年	1 m ² 当たり			10a当たり		
				健全果重量(kg)	健全果率(重量%)	含果数	1果重(g)	比重	健全果重量(kg)
5本	0.32	0.34	0.30	0.32	67	1.54	25.9	1.088	322.8
7本	0.41	0.45	0.30	0.39	68	1.45	24.8	1.085	385.1
9本	0.27	0.44	0.30	0.34	70	1.46	25.4	1.087	338.7